

# 製品安全スマート化のご提案

産業構造の改革が進んでいます。産業保安・製品安全スマート化が決定し、2021年までに各企業もこの産業基盤整備を整えることが求められます。

製品安全のスマート化とは、IoT を利用し製品トレーサビリティを確保、製品リコールなどの効率化を図ることとしています。即ち、事業者は、不適合品が判明した場合、製品リコールや自主回収を積極的且つ迅速に実行し、その結果の効果検証を行ない、市場の残存リスクを確実に排除することを行なえる企業の体制、システムの整備が求められるということになります。

※経済産業省産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会第1回資料2「産業保安・製品安全スマート化の進捗状況」平成30年4月4日公表資料より。

<https://tdn-japan.com>

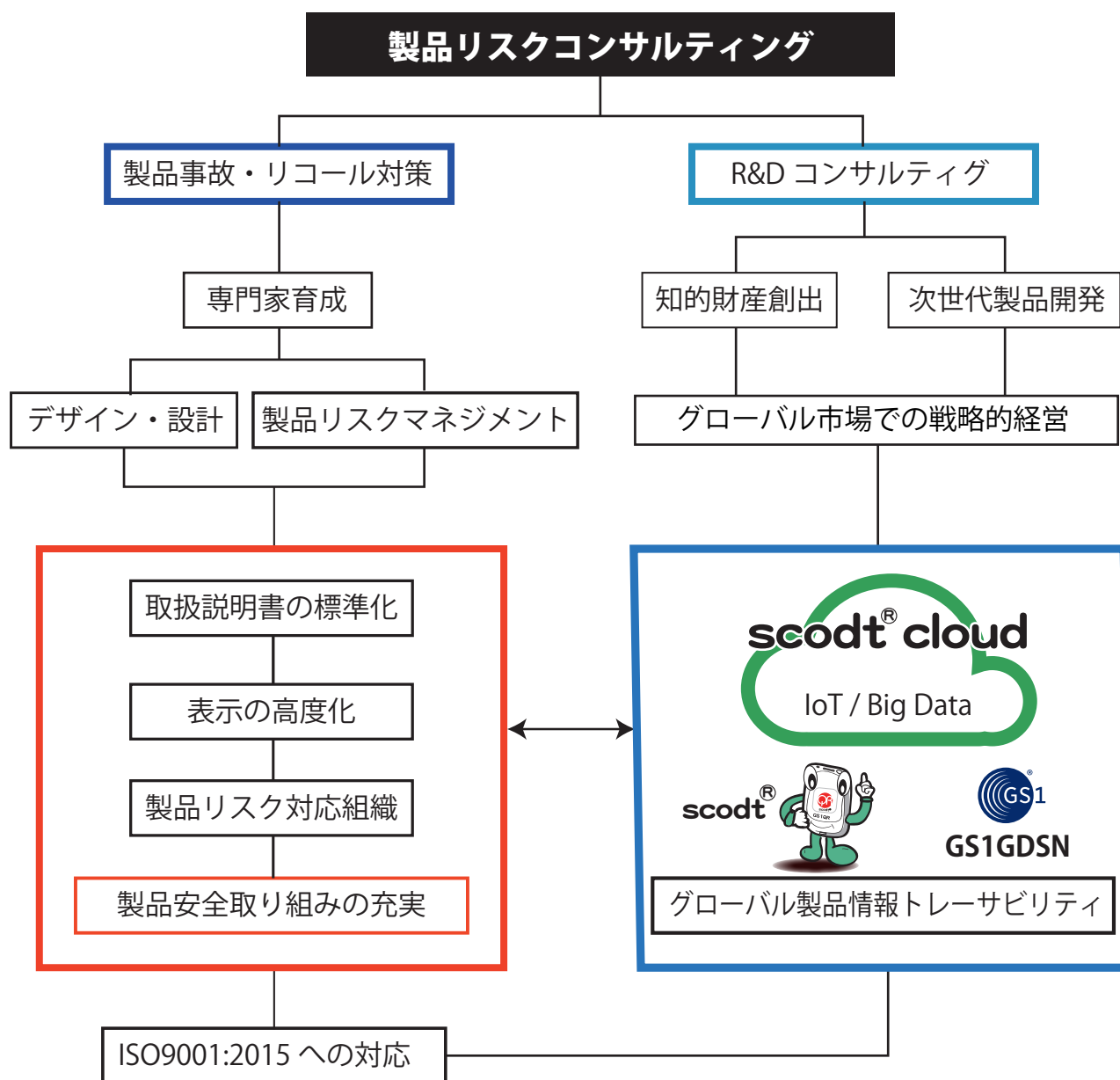
 TDN International Ltd. Ver1.4

# 製品安全のスマート化を導入支援します。

当社では、2002年より販売引き渡し後の製造物責任を全うするための「最新！PL対策」を提案、多くの企業にて実績を積み上げています。

製品リスクを低減するための当社独自のシステム「Safety Check On-Demand Technology (scodt®)」を開発、世界最大の商品情報データプール GS1GDSN<sup>※1</sup>と連動し、円滑に且つ長期間にわたり、導入企業の製品リスク低減と営業力強化をサポートします。

※1 世界150カ国のメーカーや流通小売事業者2万社の商品情報約2,000万アイテムが登録されている商品情報の世界標準化機関（ブリュッセル本部）GS1のデータプールです。



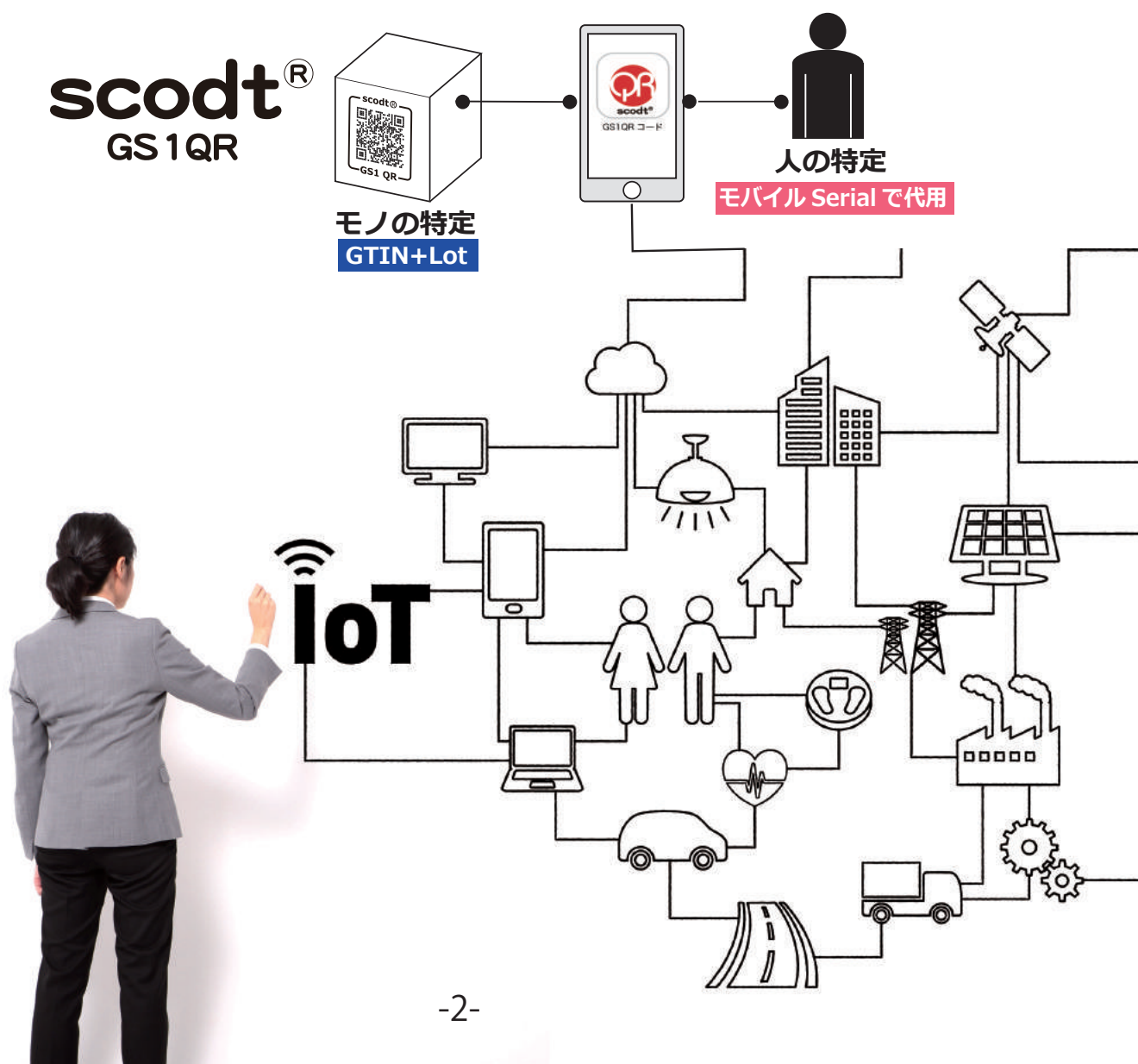
メーカー、商社、大手通販などへの豊富なコンサルティング実績と最新の支援システムにより、製品安全とグローバルトレードのスマート化が実現します。

**IoT**とは「身の周りにある全てのものがインターネットで繋がる」ということです。実際には、ものを使う人はモバイルなどを介してインターネットに繋がった様々なものを利用します。

製品安全のスマート化では、販売引き渡し後においても、「常に製品の安全に関する情報をインターネット上でリスクコミュニケーションできること」となります。

具体的には、「誤使用の防止」と「製品リコール時の速やかな対応」を行うための事業者内の体制やそれを実行するIoTシステムの整備です。2021年にはその成果を問われ、工場を出荷し、お客様に販売した後、例えば10年、20年後でもそのシステムと体制を整えていないと、大きな経営リスクに直面する事が予想されます。

**個人情報**を得る事の難しさや長期の管理リスクなども大きなハードルです。それらを解決するために当社では25年の歳月をかけ、このシステムを長期的に持続するための契約先社員様に対する継続的な専門知識教育を維持するためのプログラム、そしてその方々をサポートするモバイルアプリを利用した最新のクラウドシステム「Safety Check On-Demand Technology scodt®」を開発運用しています。さらにより効果的にグローバル営業戦略システムとしてご利用いただくため、GS1GDSNも利用したscodt cloudを提供しています。



## IoT ビッグデータの利用

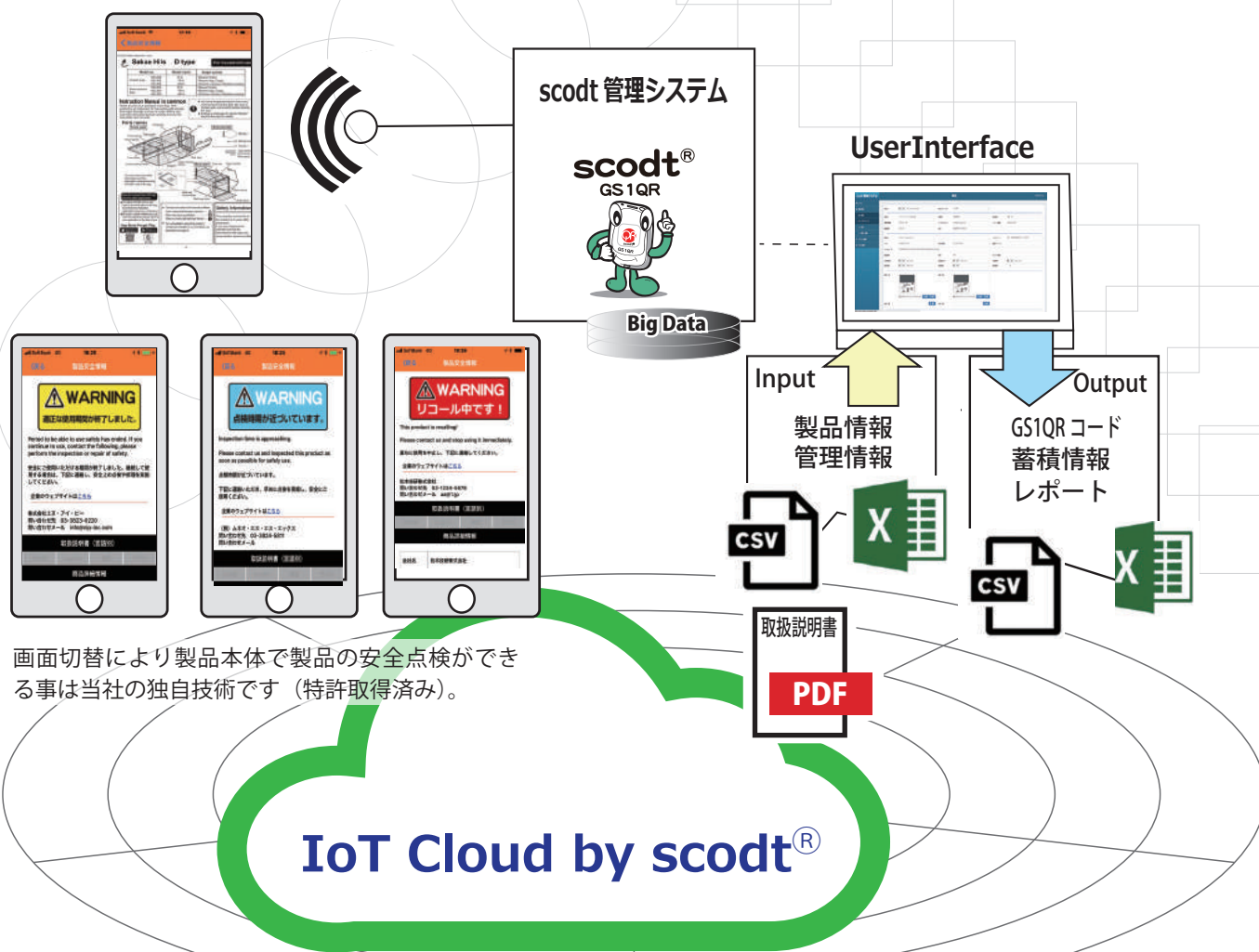
国内販売を目的に製造しても、引き渡し後多様な経路で販売・消費され、現実的には世界の何処でも使われても不思議ではありません。その状況下で製品ユーザーを特定するための技術はこれまで開発されていませんでした。

当社では、工場出荷後の製品特定のユニークコードとして GTIN(日本では JAN コードと呼ばれる)に注目しました。さらに製品安全ではロット管理も重要なため、長期耐用性のある 2次元シンボル GS1QR を利用しています。その上で、個人情報に代わる利用者情報として、モバイルの Serial をアクセス時に取得し、それらをデータベース化しています。

このシステムにより、製品安全に関わる情報、例えば取扱説明書(多言語対応)を表示できます。そして、初期登録時に予め設定した所有者登録、修理点検や製品寿命到来については、その指定した時期が来るとシステムのコマンドで自動的にモバイルアクセス時の画面を切り替えることで、使用者が確実にそれらを知る事ができます。

**製品リコール**が生じた場合も、その製品の GTIN とロットを指定し、システムの User Interface より直ちに「リコール通知画面」に切り替え、プッシュ通知を併用し、対応方法を記載した web サイトに誘導することができます。速やかにこれらの告知が行なえ、アクセス履歴などを基に、データ解析を行ない、進捗状況などを把握し、よりよい改善対策を進める事が出来ます。


※2 GS1 が世界の流通情報標準化の一環として批准している QR (2次元シンボル) です。世界の流通小売の自動認識に利用されるため、コード体系や読み取り上のルールなどが厳格に定められています。



画面切替により製品本体で製品の安全点検ができる事は当社の独自技術です(特許取得済み)。

**IoT Cloud by scodt®**

注1 scodt®の詳細は別途パンフレット、資料を用意しています。  
注2 GDSNのご利用については別途資料をご用意しています。



TDN インターナショナル株式会社  
〒173-0013 東京都板橋区氷川町 47-4 アビタシオンK 1F  
info@tdn-japan.com  
<https://tdn-japan.com>